○３番（枝　史子君）　改めまして，こんにちは。議席番号３番，枝史子です。傍聴席の皆様におかれましては，お忙しい中，足をお運びくださいましてありがとうございます。

それでは，議長により発言の許可をいただきましたので，通告に従い一般質問を進めてまいります。私の今回の一般質問の内容は，小学生の登下校時の荷物の負担軽減について町の取組を問うということです。今回私がこのテーマを取り上げた理由は，小学生の保護者の方から，子供が背負うランドセルがあまりにも重い，これは何とかならないのかというご意見を伺ったからです。また，実際子供が重いランドセルを背負うことによって，常に前かがみの姿勢になり，足元しか見えていない状態で登下校している状況も危ないのではないかとおっしゃっていました。そこで，この小学生の登下校時の荷物の重さについて調べたところ，これは数年前から問題視されている上，ランドセル症候群という名前まで既に存在し，ある意味社会問題化していることが分かりました。けれども，小学生に接する機会のない方には，なじみのないことかもしれないと思いますので，少し説明をいたします。

まず，ランドセル症候群とは何かということですが，自分の体に合わない大きさや重さのランドセルを背負ったまま長時間通学をすることによる，心と体の不調を表す言葉だそうです。具体的には，小さな体で３キロ以上の重さがある通学かばんを背負いながら通学することによる，筋肉痛や肩こり，腰痛などの身体異常だけでなく，通学自体が憂鬱になるなど，気持ちの面にまで影響を及ぼす状態と定義されています。

このように聞くと，小学生が身近にいない方は，「本当に重いの」とか，「今の子は甘やかされているだけだ」とか，「二宮金次郎だって薪を背負っていたではないか」とか，荷物が多過ぎるということについてなかなか理解できないのではないかと思います。しかし，調べて見ると，小学生の荷物が昔に比べて重たくなっているというのは，気のせいでも何でもなく，数字として表れているのでご説明します。

まず，なぜ昔に比べて重くなったのかですが，原因として最初に上げられるのが，教科書自体が重くなっているということです。調査によると，平成 17 年度と令和２年度で教科書のページ数を比較すると，令和２年度は約 1.75 倍になっています。これは脱ゆとりで学ぶ内容が増えたにもかかわらず，見やすさや理解しやすさを考慮して，ページ内の文字を減らし，図や絵を多用していることが原因です。さらに，小学校では英語も必修化され，取扱い教科書の冊数も増えています。そしてそれに輪をかけて，教科書以外の荷物も増えています。まず，先ほど鈴木議員の答弁にもありましたが，小学生一人一台タブレットが支給されましたが，これが毎日持ち帰りとなっています。

ちなみに，境町の小学生のタブレットを量ってみたところ，重さが 1.4 キロありました。さらに，水筒も毎日持参，ここに水を入れると約１キロ前後の重さになります。ほかにも体操着や給食当番のかっぽう着，習字セットなど，持ち帰るもの一つ一つは大した重さではないとしても，それが積み重なると物すごく大きな負担になります。

では，実際にどれだけの重さの荷物を登下校時に持っているのか，境町の小学生の実情を調べるために，私が 11 月下旬に小学生の保護者対象にＳＮＳを利用してアンケートを行っ

たところ，１週間のみの実施だったにもかかわらず，147 件の回答をいただきました。その結果によると，全学年平均で約 5.6 キロの荷物を持っていることが分かりました。子供たちの体重は同じくアンケート結果によると，平均 31.5 キロ，この数値から計算すると，子供たちは自分の体重の 17.75％の重さの荷物を持って登下校していることになります。この 17.75％という数値では，その重さはぴんとこないかもしれませんが，これを例えば体重 70 キロの大人に当てはめて考えると，その重さは 12 キロ以上，大体２リットルのペットボトル６本入りの箱を毎日背負っている計算になります。子供たちの負担感，何となくお分かりになりますでしょうか。

さらに，学年別に見ると，１年生の荷物の重さは，自分の体重の２割を超えているという結果が出ました。先ほどのように体重 70 キロの大人に当てはめると 14 キロ，２リットルのペットボトル７本にもなります。これを毎日背負って登下校しているのだと考えると，子供たちの体への負担の度合いが実感できるのではないでしょうか。

どれだけの重さが体に悪影響を及ぼすのか，残念ながらそのような結果を見つけることはできませんでしたが，判断材料の目安として，アメリカ小児科学会は，バックパックの重さは体重の 15％を超えてはならないと勧告しています。しかし，先ほど申し上げましたように，アンケート結果から見ると，境町の小学生の荷物の重さは体重の 17.75％であり，上限の 15％を超えてしまっています。また，同じくアメリカでの研究によると，荷物が重くなればなるほど，椎間板が圧迫され，すき間が狭くなるということや，ランドセルが重いと，前傾してバランスを取ろうとするため猫背ぎみになるということが，ＭＲＩの画像で確認されたそうです。

このように，小学生の荷物の重さが既に体に悪影響を及ぼしかねないレベルに達していることがお分かりいただけたのではないかと思います。

また，アンケートの中に，登下校時の荷物の重さについてご意見をお書きくださいという自由記入欄を設けたところ，全回答者の３分の２に当たる 98 名の方から貴重な意見が寄せられました。例えば，「うちの子は体が細く，肩に負担が相当かかるので，当て布をしてしますが，それでも痛がります」といった体への負担を心配する声はもちろんのこと，「かなり重く，重さに耐えられず簡単に転びます。転んで血まみれで登校した日もありました」といった通学時の危険性を指摘する声や，「荷物が多くて，子供が泣いているときがあります」といった精神的な苦痛を訴える声もありました。そして，何人もの保護者の方が，「我が家はまだ学校まで近いから，そこまで負担はないけれども，30 分から 40 分も歩いて登下校する子供たちがかわいそうだ」といった，我が子だけでなく，お友達のことも気にかけ心配しているとの声を寄せてくださったのが，とても心に響きました。

このような声が境町だけでなく，全国各地で上がっていることから，文科省は平成 30 年９月に児童生徒の携行品に係る配慮についてという通達を出し，勉強道具を置いていく，いわゆる置き勉を認めるとともに，何を持ち帰らせ，何を学校に置いていくかについて，必要に応じ適切な配慮を講じてくださいと，都道府県教育委員会に指示しています。それでも先

ほどのアンケートを見る限り，まだ改善されているとは言えない状況なのではないかと私は感じております。そこで，国では先ほどのような指針を出していますが，境町の取組はどのようになっているかをお尋ねしたいと思います。

以上，答弁をよろしくお願いします。

○議長（倉持　功君）　ただいまの小学生の登下校時の荷物の負担軽減についての質問に対する答弁を求めます。

町長，橋本正裕君。

〔町長　橋本正裕君登壇〕

○町長（橋本正裕君）　それでは，枝議員さんのご質問にお答えします。

ごもっともでございまして，うちの子供は小学校１年生なものですから，非常に毎日重いものを持ってくる。さらには，無駄なものも持ってくる。さらには，非常に枝議員さんが言っている言葉はよく分かっていて，とにかく教育委員会にいつも指示をして，教育委員会から学校に指示をしています。そのところ，例えば僕の友人からも，その子は３年生なのですけれども，毎日クロームブックを，当時コロナ禍だったらリモートでやっていたものですから，それはしようがないにしても，今はコロナ禍ではあるけれども，自宅でなく普通の通常登校です。にもかかわらず，毎日使わないのに持って帰ってくるのだというわけです。

それ言いました。使わないのに持って帰ってくるというのはないだろうと。小学校１，２年生は負担が大きいから，もう１，２年生は持ってこさせるのではないという話をしました，半年ぐらい前ですか。今境小１年生は持ち帰らなくなりました。そして長田小も持ち帰らない，猿島小は週末のみ，森戸小も持ち帰らない，静小も週末のみとなっています。しかし，２年生については，境小は毎日持ち帰っているそうです。僕は持ち帰ってないと思っていました。長田小は持ち帰らない，猿島小も長期休業のときのみ持ち帰る。森戸小も持ち帰らない，静小も週末のみというふうに改善がされています。しかし，境小だけされていないので，今何で指示したのに持って帰ってきているのだと言ったら，毎日使っているのだという話だというのです。でも親御さんたちは使っていないというわけです。僕も２年生の親であれば分かるわけです。まだ２年生になっていないものですから。

とにかく至急，これは学校に確認すると毎日使っていると言うものですから，そうではなくて，親御さんに聞いて，本当に毎日持って帰ってきて，毎日使っているのかと，そういう話をするべきではないかなというふうに思っておりますので，もう重々承知なので。

先ほどの水筒もそうです。これも半年以上前ですけれども，水筒，あれも毎日持っていって，毎日空になって水を入れたりするわけです。昔であれば水飲みのあれがありました，ボタン押すやつが。でもあれだとやはり菌が出るというのがあるので，今はウオーターサーバーを置けばいいわけです。各階にとか。そういう指示もしました。でもまだやっていないです。教育委員会から学校には行くのだけれども，学校がやはり今までこうだったとか，子供たちのことを考えるのではなくて，やはりそこを考えてしまうわけです。だからやはり我々執行部としては，しっかりと子供たちが，しかもここに，境小なんかも書いています，国語

と算数は毎日持ち帰ると。それ以外も持ち帰ってきています。親だから分かります，毎日見ていますから。やはりそういう声も多いですから，それをこの間言ったら，来年からはデジタル教科書になるので軽くなりますというわけです。でも今ですから，今やれることはしっかりやって，やはり低学年なのです。低学年の子たち，そういったところを改善をする必要があるというふうに僕は思っていますので，しっかり枝議員のご指摘どおりやっていきたいと思っています。

もう一つは，僕のほうから言うのもあれですけれども，例えば児童クラブ，児童クラブなんかも勉強していると思うではないですか，夏休みなんか行って。遊ばせているだけなのです。もったいない。そんなのが，１年生だから分かるわけです。これ２年生になり３年生になると，また課題が僕なんか分かってきますので，保育園とか幼稚園はそれだったのです。自分の子が行ったから，そこでおむつの持ち帰りが分かって，これなくそうとか，それから，ではクーポン券がほかの町では出ていて，よかったからうちの町でも出そうと，それ僕も恩恵を受けて分かっていくわけです。ようやく小学校１年生になったものですから，多分２，３，４，５，６，さらには中学生と，課題がたくさんあると思うのですけれども，日々そういったものを，一般質問だけではなくて，こういう一般質問だと年に４回しかないですから，申し訳ないのですけれども，こういう場で言われても，改善するまで時間がかかってしまいます。それならばアンケートを取った時点で僕に言ってもらえれば，そこで改善できますので，できれば子供たちに関わること，お年寄りに関わることもそうですけれども，住民の皆さんに関わることは一般質問まで待つのではなくて，できれば早急にやっていかなくてはならないこととかは，僕らに言っていただいて，そうだなということは議会と相談してやっていくというのが境町の今までのスタイルですので，一般質問まで待つということよりも，今あること，今問題を抱えていること，今やれることは今改善していく，そのことをぜひ執行部からもお願いをしたいなというふうに思っていますので，この携行品の荷物負担軽減，さらにはまだまだたくさんいっぱいありますから，本当に無駄なものとかいっぱいありますから，夏休みに持ってきてなくなってしまうものとか，いっぱいあるのです。それなので，そういったところで，日々僕も改善をしていきたいというふうに思っていますので，議員の皆様方も本当に身近な切実なもの，そういったものは言っていただければ。

児童クラブの夏休みもそうです。今まではお弁当を持っていっていたのです。お弁当を持っていって，しかも児童クラブはエアコンが利いているから大丈夫だというのです，冷蔵庫なくて。お弁当を，あの暑いさなか，エアコンの中にただ置いてあるのです，あり得ないでしょう。でもそんなのは僕が児童クラブに預けたから気づいたことであって，預けていないと気づかないです。今はお弁当を夏休み中は給食センターから運んできてもらう。さらには，できないときはお弁当を取ることにしています。なので，食中毒になることはないでしょうけれども，今まではご家庭で作っていただいたのを，冷蔵庫もないところに置いておいたというのです，夏場です，エアコン利いているからと。あり得ないです。だからそういうことといっぱいありますので，喫緊の課題はぜひ直接言っていただいて，改善をしていきたいとい

うふうに思っていますので，この件に関しましても，しっかりと改善をしていきたいというふうに思っていますので，よろしくお願いしたいと思います。

○議長（倉持　功君）　答弁に対して質問はございますか。

枝史子君。

○３番（枝　史子君）　質問ではないのですけれども，先ほど町長のお話を伺いまして，町のほうでも，そのような荷物が重過ぎるということをちゃんと理解して対策を取っているということを聞いたので，私のほうも安心しました。やはり子供たちに勉強してもらいたいから，いろいろなものを与えたいという気持ちはもちろん分かるのですけれども，それを全部子供たちに積み重ねてしまうと，それによって体を壊してしまう，けがをしてしまうということになってしまったら，本当に元も子もないなというふうに私は考えておりますので，ぜひ迅速な対応をお願いしたいと重ねて思います。

私のほうからは以上になります。

○議長（倉持　功君）　これで枝史子君の一般質問を終わります。